

平成 19 年 12 月 11 日
日本環境安全事業株式会社

最近のトラブル状況について

前回の委員会以降北九州事業所において発生しました下記2件のトラブルについて報告します。

- ・グローブボックス内でコンデンサ素子切断中に火花発生（平成19年7月25日）
- ・荷捌室ヘフォークリフト搬入中に扉が脱落、運転会社員が負傷（平成19年8月22日）

尚、いずれのトラブルも外部へのPCB漏洩はありませんでした。

1. グローブボックス内でコンデンサ素子切断中に火花発生

(1) 発生状況概要

- ・7月25日（水）20:55頃、コンデンサの解体作業を行うグローブボックス内でコンデンサ素子の切断中、切断面からの火花の発生を確認、直ちに機械を停止するとともに、素子には紙類も使用されていることを勘案し、念のためグローブの一部を切断し消火器使用して火災発生を予防しました。
- ・直ちに消防、市環境局へ電話連絡し、翌日各機関の現場確認を受けました。

(2) 原因と対策

- ・コンデンサ素子を切断するカッター刃等の状況に異常は見られませんでした。が、カッター刃の交換時期が迫っていたこと、厚みのあるコンデンサ素子を2段重ねで切断していたことが重なり、切断時に強い抵抗が発生し、摩擦熱により火花が発生したと思われます。
- ・カッター刃の交換基準の見直し及びコンデンサ素子2段重ね切断時の厚さの見直しを実施しました。

(3) 作業の再開等

- ・各機関からの指導事項の対応を行い、7月27日（金）グローブボックス作業を再開しました。また、7月26日（木）にはJESCOホームページ掲載等の外部公表を行いました。

2. 荷捌室ヘフォークリフト搬入中に扉が脱落、運転会社員が負傷

(1) 発生状況概要

- ・8月22日(水)14:55頃、定期点検から戻ってきたフォークリフトを荷捌室の搬入口から搬入中に、搬入口の扉がはずれ、付近で待機していた当社施設の運転委託会社(KEPS)の作業員の顔面に当たり負傷、公設救急車にて搬送し北九州市立八幡病院で16日間入院しました。
- ・直ちに警察、消防、市環境局等の関連指導機関へ電話連絡し、各機関の現場確認後、脱落した扉は復旧しました。

(2)原因と対策

- ・扉脱落の原因は、トラックからフォークリフトを降ろした直後にトラック後部が跳ね上がり、ドアを下から持ち上げて脱落したものです。
- ・フォークリフトの点検は施設内で行うこととしました。やむを得ず外部に持ち出す場合は、扉を取り外した状態で搬出搬入を行うこととしました。

(3)負傷者の状況

- ・搬送先の北九州市立八幡病院にて入院治療(8月22日～9月7日)を行いました。
- ・精密検査の結果、視力、脳、骨等に異常は認められませんでした。
- ・退院後の状況
 - 9月7日退院、9月17日まで自宅療養、通院検査・リハビリ。
 - 9月18日出勤し正常勤務に就く(日勤者)。通院治療は継続。

以上